



## 環境を守る農業宣言

以下のチェックした事項に取り組み、良質安全で環境負荷軽減を目指した米づくりをします。

- 土づくりに緑肥（クローバ）を用いる。
- 土壌分析等により地力を判定し適切な施肥量とする。
- 本田では化学肥料を用いず有機質肥料を施用する。
- 肥料分の流出防止のため代かき水を流さない。
- 肥料分の流出防止のため落水が必要な場合は、にごりがおさまってからとする。
- 生育状況に合わせ中干し等適正な水管理をする。
- 化学農薬の使用は慣行の5割以下とする。
- 種子は温湯消毒種子を用いる。
- 除草剤の使用にあたっては7日間以上止水する。
- 病害虫の発生状況に応じた防除を行う。
- 畦畔は除草剤を用いず草刈りにより除草する。
- 畦畔の草刈りは出穂10日前に行いカメムシ被害を防止する。
- 適期（青味粉率10～15%）の収穫を行う。
- 製品の乾燥は可能な限り、はで掛け、天日干しとして火力乾燥を控える。
- 土づくりに緑肥（レンゲ）を用いる。

平成 21 年 3 月 10 日

宣言者

日向洋行

※この枠内は記入しないでください。

宣言第0911098号 として受理しました。

島根県知事 溝口 善兵衛

